

研究室だより

(2019年4月1日～2020年3月31日)

- 藤永康政氏は、4月、教授に就任。
- 土屋智子氏は、4月、准教授に就任。
- 井上亜紗氏は、4月、助教に就任。
- 加藤彩雪氏は、4月、助教に就任。
- 西貝真紀氏は、4月、助教に就任。
- 川端康雄教授は、4月、日本ワイルド協会会長に就任。
- 鈴木喜和准教授は、4月、イギリス・ロマン派学会理事に就任。
- 高梨博子准教授は、4月、話しことばの言語学ワークショップの実行委員に就任。
- 鈴木喜和准教授は、4月1日から2020年3月31日まで、オクスフォード大学にて派遣研究員として研修。
- 松森晶子教授は、4月、「奄美大島南部・瀬戸内町における重音節発生の歴史的経緯——狭母音化との相対年代から考える——」を『日本語の研究』第15巻1号に執筆。
- 井上亜紗助教は、4月、「伝統と記憶を担う身体——ソール・ベロー『ベラローザ・コネクション』の役者たち」を『ユダヤの記憶と伝統』（彩流社）に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、4月19日から4月20日、“Elizabeth Keith and Ulric van den Bogaerde’s Illustrations for the *Times’s* Japanese and Russia Supplements: artistic mediations in print, 1914–1917”をCIRN 1: Methods and Approaches（於早稲田大学早稲田キャンパス）にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、4月26日、「モリス研究者の遺したものは——小野二郎の仕事（と未完のプロジェクト）」、「小野二郎年譜」、また翻訳ウィリアム・モリス「ケルムスコット・プレス設立趣意書——1896年発表のエッセイ」を収録『ある編集者のユートピア——小野二郎：ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校』（世田谷美術館）に発表。
- 川端康雄教授は、4月27日、朝日カルチャーセンター湘南教室にて講演「ラスキンとモリス——芸術思想の継承」を行う。
- 坂田薫子教授は、5月、『怪物（モンスター）のトリセツ（取扱説明書）——ドラキュラのロンドン、ハリー・ポッターのイギリス』（音羽書房鶴見書店）を単著にて出版。
- 藤井洋子教授は、5月、“Communicative interaction in terms of ba theory: Towards an innovative approach to language practice”を*Journal of Pragmatics* 145に執筆。
- 高梨博子准教授は、5月12日、第12回日本英語学会国際春季フォーラム（於聖心女子大学）にて研究発表の司会を務める。
- 川端康雄教授は、5月18日、世田谷美術館（東京都世田谷区砧公園）にて招

待講演「ウィリアム・モリスと小野二郎」を行う。

- 鈴木喜和准教授は、5月18日、“Keats’s Antiphonal Music: Peterloo and ‘To Autumn’”を第6回 Keats Bicentennial Conference (於キーツ・ハウス)にて口頭発表。
- 英語英文学会春季講演会が、5月23日、開催された。講師は郷農彬子氏(株式会社バイリンガル・グループ代表取締役社長)。演題は「社会に出てからの英語」。
- 川端康雄教授は、5月25日、日本英文学会第91回大会(於安田女子大学)にてシンポジア第1部門「詩人ウィリアム・モリスを読み直す」にて司会を務め、同シンポジウムの講師として「詩・小芸術・コミットメント——モリスの後期韻文作品をめぐって」を口頭発表。
- 坂田薫子教授は、5月25日、「Thomas Hardy と〈教養〉小説」を日本英文学会第91回大会シンポジア第3部門「反〈教養〉小説——適応をめぐる近代文学史」のパネリストの一人として第91回日本英文学会全国大会(於安田女子大学)にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、6月20日、「泉会寄贈による「ケルムスコット・プレス全刊本53点」について」を『日本女子大学図書館だより』第165号に執筆。
- アン・スレイター教授は、6月20日、エッセイ“Summer in Tokyo: Rain Women, Cicadas, and Visits from the Dead”を *Catapult magazine* に執筆。
- 馬場聡准教授は、6月、『世界のシンデレラ』(PHP研究所)を監修、出版。
- 馬場聡准教授は、6月、「緑の大地オレゴンとウォルト・ディズニー」を『ディズニーファン7月号』(講談社)に執筆。
- 高梨博子准教授は、6月1日、「観光の詩的パフォーマンス: 日米欧の都市の事例から」を愛知大学人文社会学研究所シンポジウム『ことばの詩、生活の詩、社会の詩——日常の中のポエティックス』(於愛知大学豊橋キャンパス)にて口頭発表。
- 大場昌子教授は、6月8日、「村上春樹とアメリカ文学」を若葉会(附属高等学校同窓会)(於日本女子大学目白キャンパス)にて講演。
- ダグラス・フォースター准教授は、6月8日、“English Immersion through Online Extensive Reading”を The Six Annual Conference on Global Higher Education (於レイクランド大学ジャパンキャンパス)にて口頭発表。
- 藤井洋子教授は、6月8日から6月15日まで、第16回国際語用論学会(於香港理工大学)に出席、研究発表のため香港へ海外出張。6月11日、“Japanese as a *Ba*-oriented Language: Non-Western Perspectives for Representation of the World”を第16回国際語用論学会(於香港理工大学)のパネル“Emancipatory Pragmatics: Probing language usage in diverse contexts”にて口頭発表。
- 高梨博子准教授は、6月11日から6月16日まで、第16回国際語用論学会(於香港理工大学)に出席、研究発表のため香港へ海外出張。6月13日、“Emergent Parallelism in Walking Tour Discourse with International Tourists”を第16回国際語用論学会(於香港理工大学)にて口頭発表。

- 馬場聡准教授は、6月12日、「ディズニー映画の恋愛学」を専修大学生田キャンパスにて講演。
- 早野薫准教授は、6月12日から6月16日まで、第16回国際語用論学会(於香港理工大学)に出席、研究発表のため香港へ海外出張。6月14日、“‘Off-stage’ negotiation of who is going to serve: Resources for embodying requests and offers”を第16回国際語用論学会(於香港理工大学)にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、6月28日、日本女子大学目白図書館にて「本学図書館所蔵の「ケルムスコット・プレス」刊本揃いについて」と題して講演を行う。
- 大場昌子教授は、6月29日、「ユダヤ系アメリカ人の文学」を目白会(於日本女子大学目白キャンパス)にて講演。
- 川端康雄教授は、6月29日、レイモンド・ウィリアムズ研究会(日本女子大学目白キャンパス)にて、「木下誠著『モダン・ムーヴメントのD・H・ロレンス——デザインの20世紀|帝国空間|共有するアート』(小鳥遊書房、2019年)を読む」の司会を務める。
- 藤永康政教授は、6月30日、「オバマからトランプへ——アメリカ・リベラリズムの現在」を総合社会科学学会2019年研究大会(於日本女子大学目白キャンパス)にて招待発表。
- 土屋智子准教授は、6月30日、第29回アメリカ移民学会(於天理大学柚之内キャンパス)にて自由論題報告の司会を務める。
- アン・スレイター教授は、7月30日、エッセイ“How I Found Sanctuary Living in a Japanese Teahouse”を *Catapult magazine* に執筆。
- 馬場聡准教授は、7月、「ディズニー映画の恋愛学1——ロマンスの語り方」を『ディズニーファン8月号』(講談社)に執筆。
- 川端康雄教授は、7月13日、日本オーウェル協会例会(於早稲田大学国際会議場)にて招待講演「歴史の小さなひとかたまり(a little chunk of history)」をめぐって——『一九八四年』再読」を行う。
- 坂田薫子教授は、7月18日、『ダークサイドミステリー「永遠の命!? 吸血鬼伝説の真相～人類VS天敵～」(NHKBSプレミアム)にインタビュー形式で出演。
- 馬場聡准教授は、8月、多民族研究会事務局長に就任。
- 馬場聡准教授は、8月、「ディズニー映画の恋愛学2——恋のダイバーシティ」を『ディズニーファン9月号』(講談社)に執筆。
- アン・スレイター教授は、8月29日、エッセイ“Learning to Cook in Japan, I Fed My Family and My Sense of Self”を *Catapult magazine* に執筆。
- 藤井洋子教授は、8月3日、「言語によるコミュニケーション方法の異同——日本語・韓国語・中国語・タイ語・英語の比較より——」を第7回共創学研究会/日本女子大学文学部・文学研究科学術交流シンポジウム「多文化共生社会を共創する」(於日本女子大学目白キャンパス)にて発表。
- 川端康雄教授は、8月8日から8月23日まで、科研基盤研究(A)「「産業文学」の再定義とその国際共同研究」に係る調査のため、連合王国(ロンドン、

- ウィリアム・モリス協会ほか)に海外出張。
- 佐藤和哉教授は、8月17日から8月27日まで、資料収集および海外研究者との打合せのため、オクスフォード大学・ボードリアン図書館へ海外出張。
 - 高梨博子准教授は、8月26日から9月3日まで、研究調査のため、ドイツへ海外出張。
 - ダグラス・フォースター准教授は、8月10・11・12日、“Big Reading at Read Oasis.com” “Using Artificial Intelligence (AI) for Extensive Listening” “Using Nudges to Boost Big Reading” “How do we get Students to Truly Care About Extensive Reading?” を The Fifth World Congress On Extensive Reading (ERWC5) (於フェン・チア大学)にて口頭発表。
 - 加藤彩雪助教は、8月25日から8月29日まで、資料収集のため、オーストラリア連邦(メルボルン)へ海外出張。
 - 花角聡美助教は、8月28日から9月3日まで、資料収集のため、連合王国(ウインダム、マンチェスター)へ海外出張。
 - 西貝真紀助教は、8月30日から9月3日まで、資料収集のため、アメリカ合衆国(ニューヨーク)へ海外出張。
 - 大場昌子教授は、9月、巻頭論文「評価をめぐる雑考」を『大学時報』第388号に執筆。
 - 川端康雄教授は、9月、編著『ウィリアム・モリスの芸術と社会主義運動——同時代パンフレット復刻集成』(全3巻)をユリカ・プレスより刊行。「別冊日本語解説」を執筆。
 - 坂田薫子教授は、9月、「大学でハーディを教えるということ」を『日本ハーディ協会ニュース』第86号に執筆。
 - 藤永康政教授は、9月、「アメリカ合衆国の人種主義的大量収監と21世紀の刑罰国家」を『歴史学研究』第987号に執筆。
 - 馬場聡准教授は、9月、『エスニシティと物語り——複眼的文学論』(金星堂)を共編著にて出版。
 - 土屋智子准教授は、9月2日から9月18日まで、調査および資料収集のため、南カリフォルニア大学へ海外出張。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、9月6日から9月7日まで、研究発表のため、ベルファストへ海外出張。“Reading Between the Lines: Elizabeth Keith’s and Ulric van den Bogaerde’s Illustrations for the *Times’s* Japanese and Russia Supplements” を CERN 2: Contested Histories and Histories of Contestation (於ベルファスト・クイーンズ大学)にて口頭発表。
 - 佐藤達郎教授は、9月7日、「John Marston, *Antonio’s Revenge* など」を、第24回宗教とテューダー朝演劇の成立研究会(於慶應義塾大学三田キャンパス)にて口頭発表。
 - 高梨博子准教授は、9月8日から9月12日まで、The 13th International Conference of the Eastern Asia Society for Transportation Studies (於ウォータース・エッジ)に出席、研究発表のためスリランカへ海外出張。9月11日、“The

- Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara”を The 13th International Conference of the Eastern Asia Society for Transportation Studies (於ウォーターズ・エッジ)にて口頭発表。
- アン・スレイター教授は、9月13日、“Royal Café: A Tibetan Film from Paris”を Modern Tibetan Studies Program (於コロンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所)にて、チベット人映画監督の Tenzin Dasei と共同で講演。
 - 三神和子教授は、9月20日、「女性と思いやり：動物をめぐる、アンナ・シュウエル『黒馬物語』」を第4回イギリス女性ライティング研究会(於名古屋大学東山キャンパスジェンダー・リサーチ・ライブラリ)にてコメンテーターを務める。
 - 大場昌子教授は、9月21日、「Grace Paley の文学」を日本ユダヤ系作家研究会第33回大会(於日本女子大学)にて講演。
 - 高梨博子准教授は、9月21日、第16回話しことばの言語学ワークショップ「言語創発学の創成」(於日本女子大学目白キャンパス)にて司会を務める。
 - アン・スレイター教授は、10月28日、エッセイ“Mountains, Monasteries, and Myths: What I Discovered While Living in My Darjeeling Family Home”を *Catapult* magazine に執筆。
 - ダグラス・フォスター准教授は、10月、“Teaching Media Literacy in the EFL Classroom”を *Global Issues in Language Education Newsletter* 第112号に執筆。
 - 川端康雄教授は、10月5日から10月15日まで、科研基盤研究(B)「異文化交渉の動態と位相——ロマン主義テキストの受容と再構築の過程を考究する」に係る国際会議出席および調査のため、イタリア、ヴェネツィアに海外出張。10月7日から10月9日までヴェネツィア大学での国際会議 *Convegno internazionale «Una grande comunità»: l'Europa di John Ruskin (Università Ca' Foscari Venezia)* に出席。10月9日、同会議にて“John Ruskin and Kenji Miyazawa: An Idea of Nomin Geijutsu (Peasant Art) and Its European Legacy”を口頭発表。
 - アン・スレイター教授は、10月9日、“Tibetan Pilgrimage”を The Dallas Institute of Humanities and Culture にて講演。
 - アン・スレイター教授は、10月11日、“An Evening of Tibetan Culture at the Asia Society”を Asia Society Texas Center にて講演。
 - 高梨博子准教授は、10月5日、「定型が創発するとき——先行発話との類似性と特異性との間で——」を科学研究費助成事業「日常の相互行為における定型性：話しことばを基盤とした言語構造モデルの構築」研究会合(於日本女子大学目白キャンパス)にて口頭発表。
 - 高梨博子准教授は、10月20日、「観光地域のアイデンティティのミクロ的基礎とマクロとの相互循環——海外都市の『街の再発見のアプローチ』に着目して——」を日本交通学会第78回研究報告会(於東京女子大学)にて口頭発表。
 - 花角聡美助教は、10月8日から10月14日まで、ヴェネツィア大学での国際

会議 Convegno internazionale «Una grande comunità»: l'Europa di John Ruskin (Università Ca' Foscari Venezia) に出席のため、イタリアに海外出張。

- 大学院英文学専攻修士論文中間発表会が、10月3日、開催された。博士課程前期2年次6名が修士論文中間発表を行った。
- 英語英文学会秋季講演会が、10月31日、開催された。講師は白井洋子名誉教授。演題は「北米住民と『新世界』——大地・女性・平和——」。また大学院生2名による研究発表も行われた。発表者は、アメリカ文学より博士課程前期2年の宮崎あかり。発表タイトルは“The Repeated Theme of Pursuing Ideal Life in Hemingway’s Works.” 言語・英語研究より博士課程前期2年の新家理沙。発表タイトルは“The Difference of Suggestion between American Teachers and Students in the Task-based Interaction.” 講演と発表に先立ち、2019年度 E. G. フィリップス賞の授与式が行われた。受賞者は3年次藤野あゆな、谷口瑠菜、4年次天野杏香、馬場楓。
- 川端康雄教授は、11月、「ウィリアム・モリスの散文ロマンスとケルムスコット・プレス刊本」を『日本女子大学図書館だより』第166号に執筆。
- ダグラス・フォースター准教授は、11月、“Bridging the Gap Between Narrative and Expository Writing”を *California English* 第25巻2号に執筆。
- 花角聡美助教は、11月、『ヴィクトリア朝文化研究』第17号に、横山千晶著『ジョン・ラスキンの労働者教育——「見る力」の美学』（慶應義塾大学出版会）の書評を掲載。
- 川端康雄教授は、11月2日、ラスキン生誕200年記念シンポジウム「ジョン・ラスキンと気候変動」（ラスキン文庫、日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画共催、於日本女子大学目白キャンパス）にて司会を務め、講師として「清らかな空気、水、大地」と「悪疫の雲」——人新世の黙示録」を口頭発表。
- 花角聡美助教は、11月2日、「ラスキンが見た19世紀の空」をラスキン生誕200年記念シンポジウム「ジョン・ラスキンと気候変動」（於日本女子大学目白キャンパス）にて口頭発表。
- 高梨博子准教授は、11月9日、「観光場面の対話におけるスタンス行為」を日本英語学会第37回大会（於関西学院大学）にて講演（シンポジウム「話しことばの研究と『スタンス』：言語形式から社会的アイデンティティまで」の講師）。
- 高梨博子准教授は、11月10日、日本英語学会第37回大会（於関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにて研究発表の司会を務める）。
- 早野薫准教授は、11月11日、「会話分析で比べる英語と日本語」を2019年度外国語週間（九州大学伊都キャンパス言語文化研究院主催）にて講演。
- アン・スレイター教授は、11月20日、“Memoir writing workshop for Princeton University students”（於プリンストン大学）を行う。
- 早野薫准教授は、11月23日、「英語個人面談における多層的「知識」のマネジメント」を第22回日本語用論学会大会（於京都外国語大学）にて口頭発表。
- 早野薫准教授は、11月23日、第22回日本語用論学会大会（於京都外国語大

- 学)にて研究発表の司会を務める。
- 高梨博子准教授は、11月30日、「日本女子大学校とシカゴ大学で学んだ田中孝子」(研究課題70「日本女子大学の草創期における欧米思想の受容——女性の自立と平和運動——」)を第23回総合研究所研究発表会(於日本女子大学目白キャンパス)にて口頭発表。
 - アン・スレイター教授は、12月2日、エッセイ“*What The Tibetan Book of the Dead Teaches Us About Life*”を*Catapult*に執筆。
 - 川端康雄教授は、12月、「心に残る1冊 vol. 78——『完訳 カンタベリー物語』ジェフリー・チョーサー著、榊井迪夫訳、岩波文庫」を『桜楓新報』12月号に寄稿。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、12月、エッセイ“*Synopsis as Advertising in American Serial Fiction*”を*BKAS Essay Shorts*に執筆。
 - 高梨博子准教授は、12月、“*The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara*”を*Proceeding of the Eastern Asia Society for Transportation Studies*, Vol. 12 に共著にて執筆。
 - アン・スレイター教授は、12月4日、“*The Power of Tea: Family Stories from Darjeeling and Tibet*”を The Rubin Museum of Art にて口頭発表。
 - 大学院英文学専攻課程協議会第53回研究発表会が、12月7日、明治大学駿河台キャンパスにて開催された。本学大学院より、博士課程前期2年新家理沙が発表。アドバイザーとして、坂田薫子教授、佐藤和哉教授、藤井洋子教授が出席。
 - 高梨博子准教授は、12月8日、“*The Resonant Creation of Language Form in Japanese Playful Conversation*”を科学研究費助成事業「日常の相互行為における定型性:話しことばを基盤とした言語構造モデルの構築」の国際研究会合“*Workshop on Formulaicity and Referentiality in Discourse*”(於東京外国語大学府中キャンパス)にて口頭発表。
 - 坂田薫子教授は、12月18日、「フェミニズム批評で読む『ハリー・ポッター』」を日本女子大学生涯学習センター公開講座(於日本女子大学目白キャンパス)にて講演。
 - 川端康雄教授は、12月21日、第4回ウィリアム・モリス研究会(意匠学会デザイン史分科会、於慶應義塾大学日吉キャンパス)にて「『テーブルは覆る、ナプキンは目覚める』をめぐる」を口頭発表。
 - 高梨博子准教授は、12月21日、「インバウンド旅行者との対話・コミュニケーション——共感、そして、楽しみの創出——」を小田原・箱根SGGクラブ12月例会(於小田原市生涯学習センター)にて招待講演。
 - 馬場聡准教授は12月21日、多民族研究学会第33回全国大会(於専修大学神田キャンパス)にて司会を務める。
 - 西貝真紀助教は、12月21日、「合衆国と冷戦時代の作家たち: 禅仏教をめぐる語りの諸相」を多民族研究学会第33回全国大会(於専修大学神田キャンパス)

にて口頭発表。

- 佐藤達郎教授は、12月22日、「John Marston, *Antonio's Revenge* とその時代」を、関西シェイクスピア研究会（於関西学院大学梅田キャンパス）にて口頭発表。
- 三神和子教授は、1月、「ウィーダの女性観——セーラ・グランドとの『新しい女』論争」を『文学研究』（津田塾大学）第40号に執筆。
- ダグラス・フォスター准教授は、1月、“Narcos Television and Trump’s Politics of Fear”を*iMex REVISTA* Issue 16に執筆。
- 三神和子教授は、1月8日、最終講義「わたしだけの部屋：自立か引き籠もりか」を行う。
- アン・スレイター教授は、2月、短編小説“Aftershocks”を*SCOPE*に執筆。
- アン・スレイター教授は、2月10日、“From Lhasa to Darjeeling to America: Tibetan American Memoir Writing”をModern Tibetan Studies Program（於コンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所）にて講演。
- 高梨博子准教授は、2月15日、日本女子大学総合研究所研究課題70「日本女子大学の草創期における欧米思想の受容——女性の自立と平和の結びつきをめぐって」開催の鶴養美昭氏による講演会「成瀬仁蔵とジョン・デューイ：臨床心理学から見た関わり合いの可能性」（於日本女子大学目白キャンパス）にて司会を務める。
- ダグラス・フォスター准教授は、2月22日、“Bridging the Gap Between Narrative & Expository Writing”をCalifornia Association of Teachers of English Annual Conference (CATE 2020)（於ラックス・マリOTT）にて口頭発表。
- アン・スレイター教授は、2月26日、“Dreams, Memories, Journeys: The Story of a Tibetan Family”を東洋学研究所（於オックスフォード大学ウォルフソン・カレッジ）にて講演。
- 藤井洋子教授は、3月、社会言語科学会徳川宗賢賞優秀賞を受賞。
- 川端康雄教授は、3月、「清らかな空気、水、大地」と「悪疫の雲」——人新世の黙示録」を『ラスキン文庫たより』第79号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ケルムスコット・プレスと中世文学」を『日本女子大学図書館だより』第167号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ファリンドン通りのアリストパネス」——ウィリアム・モリスの社会主義演劇『テーブルは覆る、ナプキンは目覚める』覚書」を『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文学科）第55号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注釈」（1）を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第69号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「『志業』の一系譜——柳宗悦、壽岳文章、小野二郎」（リレー連載「アーツ・アンド・クラフツ運動と民藝運動」第六回）を『紫明』第46号に執筆。
- 坂田薫子教授は、3月、「トマス・ハーディと教養小説」を『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文学科）第55号に執筆。

- 佐藤和哉教授は、3月、「深宇宙のクルーソー：Fredric Brownの“Something Green”（1951）をロビンソン変形譚として読む」を『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文学科）第55号に執筆。
- 三神和子教授は、3月、「シャーロット・デスパード——非暴力の闘士」、コラム「ヴェジタリアニズムと女性参政権運動の女性たち——レディ・コンスタンス・リットンの場合」を『わたしらしく生きる——100年前にわたしを生きたイギリスの女性たち』（音羽書房 鶴見書店）に共著にて出版。
- 鈴木喜和准教授は、3月、“John Keats’s ‘Hyperion’ Project: A Historical Approach”を『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文科）第55号に執筆。
- 高梨博子准教授は、3月、「第59回運輸政策セミナー『インバウンド観光と対話・コミュニケーション』」を『運輸政策研究』Vol. 22に共著にて執筆。
- 高梨博子准教授は、3月、「観光の詩的パフォーマンス：日米欧の都市の事例から」を『愛知大学人文社会学研究所2019年度シンポジウム報告書「ことばの詩、生活の詩、社会の詩——日常のポエティックス』」に執筆。
- 高梨博子准教授は、3月、「日本女子大学校とシカゴ大学で学んだ田中孝子」（研究課題70「日本女子大学の草創期における欧米思想の受容——女性の自立と平和運動——」セクション3）を『総合研究所ニュース』第31号に執筆。
- 高梨博子准教授は、3月、「観光場面の対話におけるスタンス行為」（シンポジウム「話しことばの研究と『スタンス』：言語形式から社会的アイデンティティまで」）を『JELS 37』に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、3月、“Elizabeth Keith and Ulric van den Bogaerde’s Illustrations for the *Times’s Japanese and Russian Supplements: Artistic Mediations in Print, 1914–1917*”を『日本女子大学紀要文学部』第69号に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、“The Curious Case of *The Seven Magic Houses*: J. M. Barrie and The Invalid Children’s Aid Association”を『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文学科）第55号に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、“The English-language Poetry of Shotaro Oshima: An Introduction by W. B. Yeats”を *Irish Literature in the British Context and Beyond* (ed. K. Yokouchi) に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、“Newspapers and Advertising”を *The Edinburgh History of the British and Irish Press, 1800–1900* (ed. David Finkelstein) に執筆。
- 井上亜紗助教は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注釈」（1）を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第69号に執筆。
- 加藤彩雪助教は、3月、「フリーダ・ロレンスと自己形成——恋愛を手段として」を『わたしらしく生きる——100年前にわたしを生きたイギリスの女性たち』（音羽書房鶴見書店）に執筆。
- 加藤彩雪助教は、3月、「国民的作家としてのヘンリー・ローソン——リアリズムの中に見る「希望」」を『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文学科）第55号に執筆。

- 加藤彩雪助教は、3月、『D. H. ロレンス研究』第30号に、Andrew F. Humphries 著、*D. H. Lawrence, Transport and Cultural Transition: 'A Great Sense of Journeying'* (Palgrave Macmillan) の書評を掲載。
- 花角聡美助教は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注釈」(1)を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第69号に執筆。
- 高梨博子准教授は、3月13日、“The Dialogic Emergence of Language Form in Resonant Play”を科学研究費助成事業「日常の相互行為における定形性：話しことばを基盤とした言語構造モデルの構築」の国際シンポジウム“International Symposium on Formulaicity in International Discourse”（於明治大学）にてポスター発表。
- 早野薫准教授は、3月16日、社会言語科学会事業委員会主催講習会「研究成果を国際的に発言するための Tips: 文法研究・敬語研究・会話分析」にて講師を務める。
- アン・スレイター教授は、3月18日、パリ・アメリカ大学にてワーク・ショップ“Writing the Self”を行う。
- 馬場聡准教授は、3月21日、「文学メディアとしてのアンダーグラウンド・プレス」を日本アメリカ文学会東京支部にて招待発表。